

カントウヨメナとユウガギク

美唄市 新田 紀敏

2018年10月21日もう秋も深まった頃、美唄市宮島沼の岸でふと見慣れない薄紫色のキクを見かけた。雰囲気はユウゼンギクに似ているが頭花が大きく花弁は反り返っており、近寄ってみると葉は長卵形～披針形で少数のやや大きな鋸歯があった。エゾノコンギクやネバリノギクでもない。見たことはなかったが、なんとなくカントウヨメナという名が頭に浮かんでいた。帰って調べると冠毛が極短いとのことなので確認したところ確かに高校球児のような5分刈り頭をしていた(図1)。しかし滝田(2001)にはよく似たユウガギクというものもあり即断はできなかった。この時、写真を撮らずに標本を採ってしまい、写真が欲しいと思ったときにはもう花が残っていなかったことを後悔したが、後の祭り。いつもの悪い癖が出た。

どうやら同定はカントウヨメナ *Aster yomena* (Kitam.) Honda var. *dentatus* (Kitam.) H. Hara とユウガギク *A. iinumae* Kitam. の区別ができればいいようだったが、極めて似ており新北海道の花や日本の野生植物のような図鑑では今ひとつ違いがわからなかった。しかも頼りの北海道植物図譜にはカントウヨメナがない、ということでその名も日本の野菊(いがり 2007)の出番と思ったが手元になく、札幌へ出た折に買い求めることとなった。ようやく入手してみるとさすがに詳しい。あらゆる角度から実に詳しく違いが説明されている。しかし手

元の標本は1点のみ。個体差を見られないので最後のところが結構微妙で確信が持てなかった。

そこで、いがり(2007)を基に標本を比較すればはっきりするだろうと思い、北海道大学総合博物館(SAPS)で標本調査をすることにした。SAPSの収蔵標本は、道内産カントウヨメナが数点、ユウガギクが1点、本州産は双方とも多数あった。結論を先に言ってしまうと残念ながらよくわからなかった。葉の切れ込みが深いものはユウガギクであることはわかるが、そうでないものも多い。あとは瘦果にある腺毛



図1 カントウヨメナの短い冠毛
目盛は1mm。瘦果の面と稜にあるという腺毛はこの写真でははっきりしない